

プレファーマシー実習 I	内田 享弘・笠井 眞二・片岡 和三郎 ・栗原 晶子・豊原 朋子・西庄 京子 ・吉田 都
--------------	---

科目目標	プレファーマシー実習 I は、病院実務実習・薬局実務実習に先立ち、大学内で調剤、服薬説明、疑義照会など薬剤師業務に必要な項目について基本的知識、技能、態度を習得することを目標とする。（プレファーマシー実習 II および III は本科目を補完するものである。）
授業内容	処方せん、調剤の基本技能、調剤の組み立て方、服薬説明、疑義照会、医薬品の管理と取り扱い、輸液・補液、麻薬・向精神薬などについて実習を行う。
授業計画	<p>授業計画は実務実習モデル・コアカリキュラムの内容を含んでおり、下記項目に関する基本的知識、技能、態度を修得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. プレファーマシー実習を始めるにあたって            薬剤師業務、チーム医療、医薬分業に注目する</li> <li>2. 処方せん            処方せんの法的位置づけと機能、処方オーダーリングシステム、処方せんの種類、特徴、必要記載事項および不適切な処方せんの処置、法的根拠に基づいた調剤、代表的な処方せん例の鑑査における注意点、処方せんの鑑査、処方せんの鑑査の意義とその必要性についての討議</li> <li>3. 調剤の基本技能            患者の特性に適した用量の計算、処方せん例に従った計数調剤または計量調剤（倍散の調剤、軟膏剤の調製、水剤の調剤）のシュミレート、調剤された医薬品および代表的な処方せん例の鑑査、薬袋の記載、基本的輸液の調製、薬局製剤の調製</li> <li>4. 調剤の組み立て方            代表的な医薬品の用法・用量および投与計画、患者に適した剤形の選択、患者の特性（新生児、小児、高齢者、妊婦など）に適した用法・用量、病態（肝、腎疾患など）に適した用量設定、コンピュータを用いた薬剤の薬価計算</li> <li>5. 服薬説明            服薬説明の法的、倫理的、科学的根拠に基づいた意義、薬局窓口での正しい服薬説明</li> <li>6. 疑義照会            疑義照会についての法的根拠を含めた意義、不適切な処方せん例、処方せんの問題を解決するための薬剤師と医師の連携の重要性、疑義照会のシュミレート</li> <li>7. 医薬品の管理と取り扱い            医薬品管理の意義と必要性、代表的な剤形の安定性、保存性、毒薬・劇薬の管理および取り扱い</li> <li>8. 輸液・補液            代表的な輸液と経管栄養剤の種類と適応、体内電解質の過不足を判断した補正</li> <li>9. 麻薬・向精神薬            麻薬、向精神薬などの管理と取り扱い（投薬、廃棄など）、麻薬の取り扱い</li> </ol>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート[作品含む](20点)</li> <li>・平常点等(80点) 配点内訳：実習態度および実習終了時の実技評価により行う。</li> </ul>
教科書	堀岡正義/調剤学総論/南山堂
留意事項	プレファーマシー実習 II・III と同様に、実習には積極的に取り組むこと。